

平成26年度学力向上を図るための全体計画

＜学校の教育目標＞

○とりくむ子 ○考える子 ○やさしい子

学校経営方針（学力向上にかかわる要点）

基礎的・基本的な知識・技能の定着や問題解決学習の充実を進め、学び方や考える方法の習得や活用を通して、思考・判断・表現する力の育成を図る。学力向上のため「子供の学びのエンジンを動かす」「習得・活用・探究のある学びを創る」を踏まえて、授業改善を進める。

○校内研究を通して

＜研究主題＞ 「運動の楽しさを体感し、意欲的に取り組む体づくり運動

～できる・かかわり合う・工夫する楽しさを味わわせる授業づくり～

○平素の授業を通して

- ・ 児童一人一人のよさを見付け、認め、称揚し、そのよさをさらに伸ばし広げる方策を練って、粘り強く指導・支援していく。

確かな学力向上に向けた具体的な取組

改善の視点

- 取り組む活動のイメージを共有して、授業の始めに「ねらい」を設定し、授業の終わりには「ふりかえり」を板書を活用して行う。
- 国語科との関連的な指導を意識し、思考ツールの活用など、「見える化」と「操作化」のある学習活動を実践し、できる・分かる授業を創る。
- 体育科の体づくり運動に視点をあてて、体力の向上をめざす。
- 1年～4年の習熟度別指導、東京ベーシックドリルの活用、隔週の補習などを通して、算数科の学力向上を図る。
- 総合的な学習の時間の各学年の単元計画は、年度当初に再検討し、児童・地域の実態に応じて改善や更新を加えて実施する。
- 生活科における、近隣の幼稚園と本校児童との互恵的な交流活動を年間複数回実施し、幼・小の育ちの見通しをもった教育活動を改善・実施していく。

本校の授業改善に向けた視点

指導内容・指導法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
・見直しをもって学習を進めることを大事にするとともに、課題解決する喜びを味わうことができるような学習指導の充実を図る。 ・説明する活動や話し合う活動、調べ学習、書く学習など工夫した授業を展開し、言語活動の基盤をつくる。	・個に応じた学習指導を充実させるため、ゆとりある授業時間数の確保をする。 ・算数習熟度別指導を進めるとともに、東京ベーシックドリルを活用し、基礎的・基本的な力の習得を図る。 ・放課後の補習の時間を確保し、個別指導を充実させる。	・研究計画の見直しや改善を図る。年6回の研究授業と10月24日の研究発表を実施。 ・ワークショップ型の研究協議を通して、一人一人の研修を深める。 ・OJTとして教職員が相互に日常の授業を通して研修できるような工夫をする。	・ワークシート、ノート指導、観察、発言等を活用し、確実に個人の学習成果を評価し、授業改善に生かす。 ・評価に関わる学習活動の充実を図り、児童の自己評価・相互評価力を学習活動に生かせるようにする。	・「家庭学習の手引き」を活用し、家庭学習の充実を図る。 ・保護者がボランティア活動として、学習補助などに積極的に参加できる工夫をする。 ・学校運営連絡協議員・学校関係者評価委員との連携を図り、適切な外部評価を得た教育活動の充実を図る。

＜平成26年度東京都学力向上を図るための調査に見られる課題＞

- 国語では、漢字の書き取りや「読み取る力」に課題が見られた。
 - ①日常会話であり使う場面のない漢字の書き取り。
 - ②二つの資料の内容を比較・関連付けて読み取ること。
- 社会では、特に「読み取る力」や「解決する力」に課題が見られた。
 - ①写真の表していることを正確に捉え、様子を読み取ること。
 - ②資料を読み取り、そこから意図や背景を分析して答えること。
- 算数では、特に「知識・理解」「読み取る力」に課題が見られた。
 - ①四角形の性質や特徴についての知識理解。
 - ②2つの数の関係について式に表すことや条件の把握。
- 理科では、特に「思考・表現」「知識・理解」に課題が見られた。
 - ①様々な事象を総合的に関連付けて考え、推論すること。
 - ②自然事象についての知識・理解。

＜平成26年度全国学力・学習状況調査に見られる課題＞

- 国語Aにおいては、故事成語の理解、情報に関連付ける力、国語Bにおいては、課題解決のための読書法、比較して読む力、質問の意図を捉える力に課題が見られた。
- 算数Aにおいては、割合や数を相対的に捉える力、算数Bにおいては、理由や根拠を多様な方法で思考・表現する力に課題が見られた。

＜授業改善の課題＞

全教科において実践を通して、次の視点をもって授業を練り上げていくことが授業改善につながると考える。

- (1) 指導のねらいを明確にし、見直しを大切にしながら調べたり集めた情報を整理分析したりする学習活動の在り方の追究
- (2) 振り返りを重視し、基礎・基本の確実な習熟を図る指導**
- (3) 子供の問いや意欲を喚起する学習問題を設定し、既習事項や新たな情報を活用し、問題解決を図る授業の推進
- (4) 情報などを比較・分類・関連付けて、理由や規則、特徴を見つけ、新たな知を創り出す話し合い活動の重視
- (5) 具体物を用いたり、言葉、数、式、図を用いたりして考え、表現し、説明する活動を取り入れた授業の推進**
- (6) 自分の考えを見える化して組み立てたり、友達の考えなどに関連付けたりして、自分の考えを創り、深めていけるノート作りの段階的な指導
- (7) 必要な情報を正確に取り出し読み取るために、本や新聞を読む生活習慣の確立
- (8) 家庭と連携した家庭学習の充実

